令和3年度 日本電子専門学校
第一回学校関係者評価 報告書

評価対象期間　　自：令和２年４月　１日
　　至：令和３年３月３１日

令和３年７月

学校関係者評価委員会

目　　次

Ⅰ　学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2. 学校関係者評価委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
3. 学校関係者評価委員会の実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・4
4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方　・・・・・・・・5

Ⅱ　学校関係者評価報告書の見方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

Ⅲ　学校関係者評価委員会　評価結果報告書

総評　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

項目別評価結果

○教育重点項目　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

○評価項目の達成及び取組状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

基準１　教育理念・目的
基準２　教育活動
基準４　学修成果
基準７　学校組織・学校運営
基準８　社会貢献

○総合評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

Ⅳ　学校関係者評価委員会議事録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

１．全体会自由意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
２．分野別分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

議事録
① 情報分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
② ネットワーク・セキュリティ分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・33
③ ビジネス分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
④ 電気分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
⑤ 電子分野分科会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
⑥ ゲーム分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
⑦ アニメ分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
⑧ デザイン分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
⑨ CG・映像分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
⑩ モバイル・AI 分野分科会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

Ⅴ　付属添付資料　自己評価報告書（説明資料）

Ⅰ　学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

１）目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、日本語教育機関、保護者・地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

２）基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

３）委員会運営

令和 3 年度における学校関係者評価委員会を以下のように年 2 回の開催とする。

添付：自己点検評価

①第 1 回目(7 月)に実施する委員会は、令和 2 年度（前年度）の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
また、令和 3 年度に定めた、重点的に取組むことが必要な目標・計画を発表する。

②第 2 回目（11 月）に実施する委員会は、令和 3 年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

2.学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、日本語教育機関、保護者、地域住民、在学生に委嘱した。

属 性	氏　　名	所　　属	役　　職
企　業	杉本　武史	株式会社ぴえろ	人事総務部 リーダー
	石本　則子	株式会社スタジオフェイク	代表取締役
	井沢　祐	株式会社スタジオフェイク	研究開発部 ディレクター
	木下　幸弘	株式会社ジェイスリー	取締役副社長
	舟山　大器	株式会社横浜環境デザイン	社長室長
	新　和也	オートデスク株式会社	ﾃﾘﾄﾘｰ営業本部 ﾒﾃﾞｨｱ&ｴﾝﾀｰﾃｲﾝﾒﾝﾄ ﾃﾘﾄﾘｰﾏﾈｰｼﾞｬｰ
	渡邉　登	合同会社ワタナベ技研	代表
	佐々木　伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	代表取締役
	伊藤　好宏	JTP 株式会社	技官
職能団体	篠原　たかこ	CG-ARTS （公益財団法人画像情報教育振興協会）	教育事業部 事業部長
	満岡　秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構	理事
	森　まり子	東京商工会議所　新宿支部	事務局長
	原　洋一	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会	理事・事務局長
	米井　翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	研修委員会委員
高校教員等	勝間田　清一		
	松下　秀房	目白研心中学校・高等学校	理事 校長
	西田　政偉	株式会社ウィザス	第２教育本部 教育運営部 教務 ICT 支援室 課長代理

日本語学校	会田　由紀子	東京ギャラクシー日本語学校	教務部　副部長
卒業生	谷　伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾏﾈｰｼﾞｬｰ
	中山　秀昭	日本電子専門学校同窓会	副会長
保護者	前田　かざね		
	高野　優美		
地域住民	小澤　博太郎	百人町西町会	会長
在校生	松井　双綺	高度情報処理科	3 年生
	伊東　佳汰	ゲーム制作科	2 年生
	山﨑　ひかる	コンピュータグラフィックス科	1 年生
	笹原　萌絵	アニメーション科	1 年生
	岡本　沙織	コンピュータグラフィックス研究科	1 年生

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

１）令和３年度第一回学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時　：　令和３年７月５日（月）　13：30 から 16：45

場所　：　日本電子専門学校 ７号館１階　711 教室

２）学校関係者評価委員会実施方法

今回は、新型コロナウィルス感染症の拡大を鑑み、密を避けるために、対面で行うことを避け、オンライン会議システム（Zoom）を利用し実施した。

３）学校関係者評価委員会　進行

（１）事務連絡（スケジュール、事前配布資料確認）　13：30～

（２）校長挨拶

（３）出席者紹介（日本電子教職員、評価委員）

（４）評価方法説明

（５）議長（委員長）選出

（６）学校関係者評価委員会開始　13：50～

自己評価結果の解説とその評価

○教育重点項目

○教育理念・目的

○教育活動

・・・　評価結果の判定（評価シート記入）　・・・

○学修成果

○学校組織・学校運営

○社会貢献

・・・　評価結果の判定（評価シート記入）　・・・

（７）令和３年度重点項目発表　15：00～

（８）意見交換　15：10～15：30

（９）分科会　15：45～16：45

企業、団体の委員においては、以下の分野別に分科会を行った。

① 情報分野分科会

② ネットワーク・セキュリティ分野分科会

③ ビジネス分野分科会

④ 電気分野分科会

⑤ 電子分野分科会

⑥ ゲーム分野分科会

⑦ アニメ分野分科会

⑧ デザイン分野分科会

⑨ CG・映像分野分科会

⑩ モバイル・AI 分野分科会

4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

1）自己点検・自己評価の実施

日本電子専門学校は、第 3 回学校関係者評価委員会の実施に先立ち、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、令和 3 年度自己点検・自己評価を実施した。

尚、令和 4 年度の第三者評価受審を視野に入れ、今回は「職業実践専門課程第三者評価マニュアル（改訂版）」の評価基準に則った自己点検・自己評価を実施し、点検項目は、令和 2 年度における「教育重点項目」2 項目及び、「評価項目の達成及び取組状況」8 分類 75 項目であり、合計 77 項目である。

『令和 3 年度自己点検評価報告書』には、各項目の自己点検実施状況を記載し、自己評価ポイント（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0）を示した。また、①課題、②今後の改善方法、③特記事項を記載し、学校関係者評価委員に提出した。

2）自己点検・自己評価結果の報告

学校関係者評価委員会では、『令和 3 年度自己評価報告書』を用いて、「次年度の課題とする項目」についてのみの報告し、評価をお願いした。

自己評価報告書　記述例

教育重点項目

1. 職業実践専門課程への対応

平成 25 年 8 月 30 日に告示された「職業実践専門課程」について、対象となる全ての学科の認定に向けた以下の対応を行った。

(1) 教育課程編成委員会・・・各学科の専攻分野に関する企業および関係団体等の要請を十分に生かし、職業実践専門課程の教育を施すに相応しい実践的かつ専門的な教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法改善・工夫等を含む）について検討する委員会。

＜中　　略＞

教育重点項目

	評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1、無該当：0
重点-1	職業実践専門課程への申請は十分に行われたか	4　③　2　1　0

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

３）自己点検・自己評価結果の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、自己評価報告書の内容及び、自己評価結果の評価方法を理解した上で、日本電子専門学校が行った自己評価結果について「適切」または、「不適切」の２分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会　評価記入シート」のコメント欄に記載した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。

学校関係者評価　評価記入シート　例

教育重点項目

重点項目１　職業実践専門課程への対応

評価結果	(適切)	不適切

コメント欄

３）分野別分科会の実施

学校関係者評価委員会の一環として、学科の教育内容や運営に対する意見を聴取することを目的として、分野別分科会を実施した。分野別分科会には、企業、団体の委員が参加し、日本電子専門学校からは、教育部署長ならびに学科長が参加した。

分野別分科会で意見を聴取し、今後の学校運営に反映させるとともに、教育課程に関する意見は、教育課程編成委員会に申し送ることとした。

分野の別は、以下の通りである。

① 情報分野分科会
② ネットワーク・セキュリティ分野分科会
③ ビジネス分野分科会
④ 電気分野分科会
⑤ 電子分野分科会
⑥ ゲーム分野分科会
⑦ アニメ分野分科会
⑧ デザイン分野分科会
⑨ CG・映像分野分科会
⑩ モバイル・AI 分野分科会

Ⅱ　学校関係者評価報告書の見方

１．自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 26 名が記述した評価記入シートより、評価基準の「適切」記入数、「不適切」記入数を集計しパーセント表示した。

２．委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が直接記入したコメントを項目毎にまとめた。

３．分科会の意見

分野別分科会で意見交換された内容や、具体的な学科に対する意見・改善提案を議事録「学校関係者評価委員会分野別分科会」にまとめた。

Ⅲ　学校関係者評価委員会　評価結果報告

総　評

本委員会は、日本電子専門学校の学校運営に関する自己評価の結果について、学校関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性、透明性を高め、理解促進、連携協力によって学校運営の改善に役立てていただくことを目的としています。

第一回目（7 月）に実施する委員会は、「『令和 3 年度自己評価報告書』を用いて、日本電子専門学校から報告のあった項目を評価する」ことになっており、この規定に従い、学校関係者評価委員会を令和 3 年 7 月 5 日に実施しました。
今回の学校関係者評価委員会についても、前回同様新型コロナウィルスの感染の危険性がある密集を防ぐため、委員会開催方法を変更し、オンラインでの開催となり、オンライン上で日本電子専門学校の担当者から報告を受けました。

評価については、評価委員の委嘱を受けた、関係する企業、業界団体、卒業生、保護者、地域住民、高等学校教員等（大学、日本語学校含む)、在学生の参加委員 26 名が、それぞれの立場から、学校担当者からの報告に基づき、項目ごとにその取り組みが「適切」であったか「不適切」であったかを判断し、コメントを記載しました。

今回は、令和４年度の第三者評価受審を視野に入れた、「職業実践専門課程第三者評価マニュアル（改訂版)」の評価基準に則った自己点検・自己評価が実施され、例年よりも厳しい評価となっていたようです。その日本電子専門学校の姿勢を、多くの委員が認め、支持しています。
また、コロナ禍が続く中、授業運用についてしっかりと検討され、常に学生最優先で取り組まれていることも評価しています。

今後も、学校の課題を解決するために、評価委員の意見を反映して頂くとともに、日本電子専門学校及び専門学校全体の教育の質を高めるような取組みを継続し、実施して頂くことをお願い致します。
我々評価委員は、引続き協力することをお約束し、学校関係者評価委員会評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
委員長　舟山　大器

教育重点項目

重点項目１　　NEXT10（日本電子専門学校の更なる伸張）

評価結果	適切：26 100％	不適切：0 無回答：0

コメント欄

① 妥当な評価だと思います。公開が無事に完了するのをお祈りします。(井沢)→**適切**

② 時流に合わせた新しい取組みに着手されており、コロナ禍での臨機応変な対応も素晴らしいと思います。(木下)→**適切**

③ 昼間部 21 学科全ての学科別カリキュラムポリシー･ディプロマポリシーが出揃ったとのことで、ここまでの努力が実ったと思います。令和 2 年度中に外部公開が間に合わなかったとのことではありますが、令和 3 年度公開に向けしっかりと進捗していると思います。評価は適切と判断されます。(舟山)→**適切**

④ オンライン授業と対面授業のアンケート結果を大変興味深く拝見させて頂きました。オンライン授業と対面授業は、どちらが良いというものではなく、どちらにも一長一短あるので、コロナ禍での対応というだけではなく、今後も授業の目的や内容に応じて、効果的に活用されると良いと思います。また、学校は、授業における専門教育の学習の他、将来を通じて付き合える友人や先生方、先輩後輩といった様々な方との交流による人脈形成や人格形成を行う重要な場であるので、オンラインでは難しい対面交流による機会提供はこれからもお願いします。(佐々木)→**適切**

⑤ 評価は適切だと思います。(伊藤)→**適切**

⑥ 課題の解決方法についても提示されており、信頼ができるアンケートを活用するなどして、自己点検も十分にされている(篠原)→**適切**

⑦ 令和３年度の公開を楽しみにしております。(満岡)→**適切**

⑧ Next10 が始まって数年ですが、未だ先がだいぶありますので、毎年着実に可能な所だけ進めれば良いと思います。(勝間田)→**適切**

⑨ コロナ禍の不確実な状況にもかかわらず、将来を見据えた変革が進んでいる。(松下)→**適切**

⑩ 課題を明確にし、その対策も次年度に示されていました。着実にポリシー策定を進められていると感じました。(西田)→**適切**

⑪ 外部への公開ができていないため｢3｣という評価は妥当であると思います｡ただ、全学科ポリシーの作成が完了したとのこと、大変お疲れ様でした。(会田)→**適切**

⑫ 目標達成が目前であり「3：ほぼ適切」と評価されています。適切と判断させて頂きます。(谷)→**適切**

⑬ 「外部公開が令和 2 年度中には実現しなかった」とありますが、着々とポリー策定と実行が進められていると感じました。(小澤)→**適切**

⑭ 自己評価並びに課題から適切である。(伊東)→**適切**

評価項目の達成及び取組状況

基準１　教育理念・目的

1-2. 育成人材像と関連業界の人材ニーズ

1-2-2　育成人材像には卒業認定の方針（ディプロマ・ポリシー）として、卒業時における学修成果（アウトカム）を明確にしているか

評価結果	適切：25 96.1%	不適切：1 無回答：0

コメント欄

① 広い明示の未達のみでしたら少々厳しい評価かなとは思いましたが、ディプロマポリシーの重要度から考えると妥当かなと考えました。(井沢)→**適切**

② 関係者へ明示することにいたらなかったこと、少々厳しめの評価と感じるものの適切な評価だと思われる。(舟山)→**適切**

③ 適切と思います。(佐々木)→**適切**

④ 評価は適切だと思います。(伊藤)→**適切**

⑤ コロナ禍で各種調整進行・開示が大変かとお察しします。来年度の周知を期待しております。(満岡)→**適切**

⑥ 課題が明確になっているので、良いと思います。(原)→**適切**

⑦ 「問い」が「明確にしているか」で、実績として「明示できるものがある」のであれば「不適切」と判断します。「問い」が「広く明示しているか」なら「適切」。(米井)→**不適切**

⑧ ディプロマポリシーの明確化は。自ら掲げた目標ですので、是非、実施して頂きたいと思います。(森)→**適切**

⑨ 難しい問題ですね。周知することを地味に進め機会あるごとに努めてもらいたい。1-2-2 の評価が②を付けていますので自覚していると思います。改善に努めて下さい。(勝間田)→**適切**

⑩ 3 年度へ向けた課題（実施予定）ということで承知しました。(松下)→**適切**

⑪ 卒業認定の方針を学生・保護者、関連業界などに広く明示できていないことを課題として強く受け止めていることを感じました。(西田)→**適切**

⑫ まだ外部に明示できていないとのことで、厳しい評価ではありますが「2」で妥当であると思います。学生自身がポリシーを理解して授業に参加できるようになるといいと思います。(会田)→**適切**

⑬ 学修成果（アウトカム）が明確になっていない課題があがっており、「2：不適切」と評価されています。適切と判断させて頂きます。(谷)→**適切**

⑭ 改善策が示されているので広く周知して下さい。(小澤)→**適切**

⑮ 取り組み、および現在の進行状況と今後の展望を現実的な内容で見据えており適切と言える。(伊東)→**適切**

基準２　教育活動

2-3．卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果

2-3-1　卒業生や就職先等の関係者に対し、卒業時に修得している知識・技術、技能、態度の卒業後のキャリア形成への適応性、効果などについて意見聴取を行っているか

2-3-2　卒業生や就職先等の関係者からの意見聴取の結果を教育活動の改善に活用しているか

評価結果	適切：25 96.1%	不適切：1 無回答　:0

コメント欄

① 妥当な評価だと思います。(井沢)→**適切**

② これも中々厳しい自己評価をされているが、アウトカムを計測可能な形で、評価できる指標を作成し、開示と意見の聴収していくなど PDCA がしっかり回る体制を作り改善していく姿が大変好印象で評価できると思う。(舟山)→**適切**

③ 職業能力の開発において、卒業後の就職先や就職候補から意見を吸い上げるのはもっとも重要なことと考える。ルーブリックで数値的な評価をすることが良いと考えるが、ルーブリックでの表現ではコピペでレベルを表現することになりかねないので、注意が必要である。(渡邉)→**不適切**

④ 適切だと思います。(伊藤)→**適切**

⑤ いずれも「やや不適切」との自己評価でしたが、今後の改善方法が具体的にご説明されているのが良かったと思います。(満岡)→**適切**

⑥ ここも課題が明確になっているので、ぜひ、実施をお願いしたい。(原)→**適切**

⑦ 就職先が他分野、多数あるので意見聴取は難しい、特に卒業後は仕事に追われ対応してもらえる機会も少なくなるだろう、集められる範囲で地味にすると良い。(勝間田)→**適切**

⑧ 3 年度へ向けた課題(実施予定)ということで承知しました。(松下)→**適切**

⑨ 卒業後のキャリア形成に貢献しようとする姿勢が伝わりました。ルーブリックにまとめて、その成果を図るプロセスまで改善方法として明確に示されていました。(西田)→**適切**

⑩ これから意見聴取をするということで、「2」で妥当だと思います。卒業後の意見聴取は難しい部分もありますが、学校全体の情報としても有益なばかりではなく、現場の先生方も詳しく知りたい情報なのではないかと考えられます。(会田)→**適切**

⑪ 現状は計画段階（という理解）であり「2：不適切」と評価されています。適切と判断させて頂きます。(谷)→**適切**

⑫ これからの長期的な視点のテーマだと思います。(小澤)→**適切**

⑬ 自己点検内容の通り、現状と今後の見通しから適切な評価といえる。(伊東)→**適切**

2-7. 専攻分野における教育上の必要性に対応した施設・設備

2-7-1　施設・設備は専攻分野の教育の必要性に対応できるよう整備しているか

評価結果	適切：24 92.3%	不適切：2 無回答　:0

コメント欄

① 妥当な評価だと思います。(井沢)→**適切**

② 新宿という厳しい立地の中で、しっかりとしたスペースと可能な限り最新の設備を導入していこうとする姿が、説明と、過去も何度か訪問して実際にこの目で拝見し、理解できました。評価は適切だと思います。(舟山)→**適切**

③ エレベータの設置がどれだけ工数がかかるかがわかりませんが、その他はコロナ対策含めすべて対応されているので、評価は問題ないかと思います。(新)→**適切**

④ アクティブラーニングルームは、想定と異なる雰囲気の部屋であり残念。(渡邉)→**不適切**

⑤ オンライン授業の新しい分野における必要環境の整備を適切に行っていると思います。(佐々木)→**適切**

⑥ 適切だと思います。(伊藤)→**適切**

⑦ 改善点の指摘もできており、施設・設備について適切に管理できている。(篠原)→**適切**

⑧ エレベーターやバリアフリー対策改善は、なかなか大変かと思いました。リモートの中で施設・設備も同時にケアしなければならない難しさを感じました。(満岡)→**適切**

⑨ 特にコメントはありません。バリアフリーへの対応は重要な課題ですね！(原)→**適切**

⑩ 良いと思います。(勝間田)→**適切**

⑪ 施設・設備の改善、充実に向けた努力はすばらしいの一言です。(松下)→**適切**

⑫ 障がい者が感じている、様々な障害を取り除こうとする姿勢が感じられました。(西田)→**適切**

⑬ 9 号館のエレベータの設置問題があるものの、設置基準を満たしているため、「3」という評価で問題ないと思います。(会田)→**適切**

⑭ 「専攻分野」ごとに「施設・設備」をどういった基準で評価しているのかがわかりませんでした（スペックや新技術など時代に合った施設、設備になっているか評価されていますか？）。不適切と判断させて頂きます。(谷)→**不適切**

⑮ 学校施設の改善が常に図られている。(小澤)→**適切**

⑯ 現状の精査、課題点の洗い出しから適切な評価といえる。(伊東)→**適切**

2-8．学生募集、入学選考

2-8-2　入学選考基準を明確に定め、適正に運用しているか

2-8-3　入学手続きは適正に行っているか

評価結果	適切：25 96.1%	不適切：0 無回答 :1

コメント欄

① 妥当な評価だと思います。(井沢)→**適切**

② 適正に運用されていると思われ、評価も適正だと思います。(舟山)→**適切**

③ 適切と思います。(佐々木)→**適切**

④ 適切だと思います(伊藤)→**適切**

⑤ いつもながら、学生からの人気の高さと募集人数には驚かされます。日頃の教職員方の努力の成果と感じました。(満岡)→**適切**

⑥ 今後の独自の入試規程の策定をするということで、どのように独自色を出すべきなのか？なぜ必要なのか明確にしておいた方が良いと思います。(原)→**適切**

⑦ 学校運営に於いて学生人数が重要であり、この入口となる学生募集・入試をしっかり対処する必要あり、「入試規定」を早急に策定し、次年度に備えてください。(勝間田)→**適切**

⑧ 3年度へ向けた課題（実施予定）ということで承知しました。(松下)→**適切**

⑨ 法令遵守に則り、入学選考における基準を明確にしています。(西田)→**適切**

⑩ 基準が明示されており、留学生入試に関しては、それが適正に運用されていると実感しているため、評価は妥当であると思います。(会田)→**適切**

⑪ 適切と判断させて頂きます。(谷)→**適切**

⑫ 令和3年度に入学に関する規定を策定するとのことですので期待しています。(小澤)→**適切**

⑬ 現状と、課題点などを踏まえて適切な評価といえる。(伊東)→**適切**

2-9．成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準

2-9-1　成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準を明確に定め、適正に運用しているか

評価結果	適切：25 96.1%	不適切：0 無回答 :1

コメント欄

① 妥当な評価だと思います。(井沢)→**適切**

② 成績評価システムが統合基幹システムで自動集計されることを初めて聞いたときは大変な驚きでした。様々な最新のよいものを取り入れて、よりよい学校をめざしておられると感心しております。(舟山)→**適切**

③ 評価は4の適切でも良いんじゃないかと思われます。(新)→**適切**

④ 適切と思います。(佐々木)→**適切**

⑤ 適切だと思います。(伊藤)→**適切**

⑥　学修成果（アウトカム）は、企業にとっても重視する点なので、是非達成状況を知りたく感じました。また、数値化が難しいところなので、基準の策定をどのように行うのか興味を持ちました。(満岡)→**適切**

⑦　学習成果（アウトカム）の達成状況の確認について確立されていないということですので、ぜひ、よろしくお願いします。(原)→**適切**

⑧　基準ができているのでそれに従って行っているようですのでこれで良いと思います。学修成果の達成には毎年実情を考えながら確立してゆけば良いと思います。(勝間田)→**適切**

⑨　3 年度の課題の実施に期待します(松下)→**適切**

⑩　成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準については客観性・統一性が確保されており、成果に対する達成状況の測定方法をどのように確立されていくのか、興味を感じました。(西田)→**適切**

⑪　留学生の成績表を拝見しているが､きちんと評価認定されていると感じています。学習成果の定量的な評価、ルーブリックを使った評価、可視化ができれば「4」になるとのことでしたが、現時点では「3」で妥当だと思われます。(会田)→**適切**

⑫　学修成果（アウトカム）について課題として抽出し「3：ほぼ適切」と評価されています。適切と判断させて頂きます。(谷)→**適切**

⑬　基準が明確になっているので、チェック項目を厳密に運用して下さい。(小澤)→**適切**

⑭　取り組みに対する全体的な段階と現状できていない点に関してきちんと可視化されており、適切な評価といえる。(伊東)→**適切**

基準４　学修成果

4-1. 専攻分野の教育活動における目標と取組の成果

4-1-1　卒業時の到達目標が評価可能な学修成果（アウトカム）となっているか

評価結果	適切：26 100%	不適切：0 無回答　:0

コメント欄

①　妥当な評価だと思います。(井沢)→**適切**

②　アウトカムに関しては、発展途上としての自己評価ととらえました。今後期待しています。自己評価は厳しいですが適切だと思います。(舟山)→**適切**

③　このアウトカムの部分で他の評価も影響を受けているものが多いと思いますので、こちらは今年度には進めていただければと思います。(新)→**適切**

④　適切と思います。(佐々木)→**適切**

⑤　評価は適切だと思います。(伊藤)→**適切**

⑥　定量的な評価は難しいと考えております。独自指標を策定して、常にメンテナンスして行く必要を感じました。(満岡)→**適切**

⑦　問題の把握と改善方法が見えているので、今後成果も出てくると思います。(原)→**適切**

⑧　卒業認定の方針を Web に掲載することは、学校の PR、新入生の募集にも繋がるかと思います。(勝間田)→**適切**

⑨　理解しました。(松下)→**適切**

⑩　学生が身に付けるべき資質・能力を学生・保護者に周知することと合わせて、学生が目指す指標がさらに明確になると感じました。(西田)→**適切**

⑪　学生への周知が第一であると思う。それが未達であるため、「２」という評価でいいと思います。(会田)→**適切**

⑫　すべての項目について定量的に測定可能な基準として学修成果（アウトカム）が定義できていないことから「２：不適切」と評価されています。適切と判断させて頂きます。
(谷)→**適切**

⑬　令和 3 年度の定量的な評価を期待します。(小澤)→**適切**

⑭　先述の内容を踏まえて現状の問題点や方針をしっかりと見据えていることから適切な評価といえる。(伊東)→**適切**

4-2. 専攻分野における就職に関する取組の成果

4-2-1　就職に関する目標を設定し、達成しているか

評価結果	適切：25 96.1%	不適切：1 無回答 :0

コメント欄

①　妥当な評価だと思います。(井沢)→**適切**

②　就職達成率の目標について、あるべき姿として 100%という設定は正しいとは思いますが、改善方法がどれくらい機能するかに若干不安がありそう。(木下)→**適切**

③　コロナにも関わらず、就職内定率も非常に高くまた順調に達成していると思います。評価は適切です。(舟山)→**適切**

④　コロナ禍で、この就職の部分は一番難しかったところだと思います。評価は 4 でも良いと思いました。(新)→**適切**

⑤　適切と思います。(佐々木)→**適切**

⑥　適切だと思います。(伊藤)→**適切**

⑦　コロナ禍にもかかわらず、高率達成が素晴らしいと思いました。(満岡)→**適切**

⑧　身体的ハンデの方にも取り組みをしていて、ぜひ、100%達成をしてほしいと思います。(原)→**適切**

⑨　事情のある方を除き 100%達成していると判断できるので、「4：適切」としてよいのではないかと思います。(米井)→**不適切**

⑩　概ね良い方向で取り組んでいると思います。この状況で続けて下さい。(勝間田)→**適切**

⑪　コロナ禍でよく健闘されたものと思います。(松下)→**適切**

⑫　就職希望者の中で、健康面（身体的・精神的）から就職が難しい学生が、障がい者向け就職支援との連携を通じて目標 100%にどう近づくのか具体的に分かると

よかったです。(西田)→**適切**

⑬　コロナ禍にもかかわらず、高い就職率を維持できているが、100%ではないため「3」で妥当だと思います。(会田)→**適切**

⑭　適切と判断させて頂きます。(谷)→**適切**

⑮　オンラインのもとでの就職率は妥当であると思います。(小澤)→**適切**

⑯　きちんとしたデータから現状を把握、解決策を提示している為適切な評価といえる。(伊東)→**適切**

4-3. 専攻分野における資格取得率の向上と取組の成果

4-3-1　資格取得率は目標とする水準にあるか

4-3-2　資格取得率の向上を図り、取組の成果をあげているか

評価結果	適切：24 92.3%	不適切：2 無回答 ：0

コメント欄

①　数値の低い学科が「コロナ禍のために低下した」と説明されましたが、理由が数値と合致していると認められません。

・アニメーション科　　色彩検定（R2/3）48.7%➡（R3/3）59.37%

・アニメーション研究科　色彩検定（R2/3）40.65%➡（R3/3）37.03%

同一検定、同一時期の比較で 10%以上合格率が向上している科があることから、アニメーション研究科の資格取得率低迷にはコロナ禍の影響よりも大きな原因があるはずです。年間の推移を確認してください。(ご参考：色彩検定 3 級の合格率は令和元年で 74.4%）また、委員会の最後に在校生の松井さんが「自分の学科（高度情報）で取得しなければいけないとは聞いたこともない資格が入っている」と仰っていましたが、これは非常に大きな問題です。少なくとも必ず取らなくてはいけない資格を学生が知らないということがないようにすべきではないでしょうか。全体の資格見直しも第三者を入れて適宜実施していただきたいです。(石本)→**不適切**

②　妥当な評価だと思います。(井沢)→**適切**

③　コロナ禍において一部資格取得の難しさがあったようですね。しかしながら資格取得率は高い水準であるといえると思います。全員の取得を目指しているとのこと、なかなか難しいですが、その理想を生徒に皆さんのためにも追い続けてください。(舟山)→**適切**

④　取得率が落ちた学科の理由もきちんと調査され、コロナ禍が影響とのことで、問題無いと思います。(新)→**適切**

⑤　CCNA の取得率 100%、素晴らしい結果と思います。また、ネットワークセキュリティの言葉の通り、今後はセキュリティ関連試験も目標に据えて、取り組みを検討いただくと宜しいと思います。IT 業界で活躍しているエンジニアでも、セキュリティの道を通らずに現在に至る方も多くいるのですが、セキュリティは IT に関わるすべての人に必須ですので、是非、学生にうちに最低限の知識やスキルを習得するきっかけとして頂ければと思います。(佐々木)→**適切**

⑥　適切な評価だと思います。(伊藤)→**適切**
⑦　コロナ禍の状況の中、資格取得に前向きに取り組んでいる。(篠原)→**適切**
⑧　学科によっては、資格取得のモチベーションが低い気もしています。資格でない指標を独自に保持できると画期的かと思いました。例えば、GitHub や Note を活用した、アウトプット量とそれによるリアクションの数値化など。(満岡)→**適切**
⑨　まだまだ成果が上がっているか難しいところではありますが、対策についてしっかりと検討されているようで安心しています。(原)→**適切**
⑩　コロナ禍では、学習支援の一環として、授業に関連し、実務に役立つ資格の取得は大いに有効と思いますので、力を入れて頂きたいと思います。(森)→**適切**
⑪　資格取得は、学生が学校に入る機会や目的となっていると思いますので目標が達成できるよう頑張ってください。(勝間田)→**適切**
⑫　コロナ禍でよく健闘されたと思います。(松下)→**適切**
⑬　目指す資格取得レベルと学生の求めるニーズや達成状況、資格取得率との乖離にどのような要因があるのか知りたかったです。(西田)→**適切**
⑭　コロナ禍で資格試験のスケジュールが変更になったとは思うが、取得率が目標に達していないとのことで、評価は「3」で妥当だと思われます。(会田)→**適切**
⑮　適切と判断させて頂きます。(谷)→**適切**
⑯　受験の条件等の変化等を考慮すると適切であろうと思います。(小澤)→**適切**
⑰　自己評価報告書に記載されている資格の取得率については何も問題は無いが、特に情報処理系学科の目標資格が比較的簡単なものばかりなのはどうかと思う。私の高度情報処理科では基本情報技術者とオラクルマスターの授業があるが、大半の学生が取得できていない為、カリキュラム見直しの際は検討してほしい。(松井）→**適切**
⑱　現状の取得割合を可視化し、現段階での原因や評価が適切に行われている。(伊東)→**適切**

基準７　学校組織・学校運営

7-3. 学校における安全対策

7-3-1　学校における安全管理体制を整備し、適切に運営しているか

評価結果	適切：26 100%	不適切：0 無回答：0

コメント欄
①　妥当な評価だと思います。(井沢)→**適切**
②　お子様を預かっている学校において、特に防犯に力を入れておられることが理解できました。ほかにも防火・防災・緊急避難の周知などもしっかりされていると思います。学校安全計画の策定はぜひ頑張ってください。(舟山)→**適切**
③　しっかりと対策されていると思います。(佐々木)→**適切**
④　評価は適切だと思います。(伊藤)→**適切**
⑤　適切に把握がなされている。(篠原)→**適切**
⑥　令和３年度における関連文書連携を期待しております。(満岡)→**適切**

⑦　学校安全計画が作成されていなかった理由が不明瞭でした。現在は作成されているということなので、とりあえず、適切にしています。(原)→**適切**

⑧　防災関係は適切に運営されているので良いと思います。学校安全計画、校舎が高層階まであるのでその計画を適切に計画する必要があろうかと思います。(勝間田)→**適切**

⑨　適切に管理されていると感じました。(西田)→**適切**

⑩　適切と判断させて頂きます。(谷)→**適切**

⑪　安全管理体制は整備され、適切に運営されていると思います。学校安全計画が策定されれば、適切：4となりますね。(小澤)→**適切**

⑫　現状の取り組みを具体的な内容と共に提示し、課題についても適切な対策を講じている点から適切な評価といえる。(伊東)→**適切**

基準８　社会貢献

8-1．社会貢献・地域貢献

8-1-1　学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

評価結果	適切：26 100%	不適切：0 無回答　:0

コメント欄

①　但し、高校において実施されている各種体験授業は入学者募集のための実施か、純粋な職業教育の一環かを精査する必要があると考えます。前者ならば適用外です。(石本)→**適切**

②　妥当な評価だと思います。(井沢)→**適切**

③　いままで、積極的に推進していた自治体や町内会とイベントや行事などでの関わりが、コロナでほぼできなかったにも関わらず、新宿がすすめている 3R への学生の参加お疲れ様でした。できることからやろうとしていること理解できました。(舟山)→**適切**

④　適切と思います。(佐々木)→**適切**

⑤　評価は適切だと思います。(伊藤)→**適切**

⑥　コロナ禍状況ではなかなか難しいかと感じました。(満岡)→**適切**

⑦　本年は衆議院議員選挙も実施されますので、ぜひ積極的によろしくお願いします！(原)→**適切**

⑧　コロナ禍では、止むを得なかった面があります。是非、コロナ克服後は、積極的に対応して頂きたい。(森)→**適切**

⑨　コロナ禍で実施できなかったことを、今まで継続してきた活動や関係性をどのように転換していくのか気になりました。(西田)→**適切**

⑩　適切に評価されていると存じます。(谷)→**適切**

⑪　改善の計画もあり、すこしずつ平常通り活動できますよう願っております。(小澤)→**適切**

⑫　現状の具体的な貢献と学校側の体制から適切な評価といえる。(伊東)→**適切**

8-2. ボランティア活動

8-2-1　学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか

評価結果	適切：24 92.3%	不適切：1 無回答 :1

コメント欄

① 報告ではコロナ禍で活動のすべてを実施していないということでしたので、ほぼ適切の評価は出来ないと考えます。活動は実施していないが奨励活動は行っていたということであれば、その報告をいただきたかったです。(石本)→**不適切**

② 妥当な評価だと思います。(井沢)→**適切**

③ コロナでボランティアも厳しい状況がよくわかりました。未来に向け頑張ってください。(舟山)→**適切**

④ コロナ禍のため、従来のオンサイトや対面でのボランティア活動が難しくなっていることもあるかと思いますが、近年ではオンラインで参加ができるボランティア活動などもあります。これまでの地域に根差したボランティア活動の他、今後の新しいボランティア活動の形としてご検討頂くのも宜しいかと思います。貴学の強みや学生さんの IT スキルや知識などの強みを生かしたボランティア活動もできるのではないか、と思います。(佐々木)→**適切**

⑤ 評価は適切だと思います。(伊藤)→**適切**

⑥ コロナ禍状況ではなかなか難しいかと感じました。(満岡)→**適切**

⑦ 新型コロナの影響でコミュニティへの参加が難しいのは、やむを得ないと思います。もしかするとボランティア活動のやり方をリアルに集まらないものも今後あるのかもしれませんので、継続して活動を奨励してください。(原)→**適切**

⑧ コロナ禍ですので、仕方ありませんね。(勝間田)→**未記入**

⑨ 学生の主体的な活動や参画によってさまざまな行事が支えられていることを感じました。(西田)→**適切**

⑩ 令和 2 年度は活動ができなかったということなので、評価は「3」でいいと思います。ボランティア活動だけではなく、コロナ禍で様々な活動が制限されている中で、学生達の気持ちが内向きになっているかもしれません。今年は少し活動に参加できるようになると学生達も気持ちが外に向き、学校内も活気づくのではないでしょうか。(会田)→**適切**

⑪ 適切に評価されていると存じます。(谷)→**適切**

⑫ ボランティア活動は人間教育そのものだと思います。平常通り活動できるようになりますよう願っております。(小澤)→**適切**

⑬ ボランティア活動の現状と学校側としての意見が具体的に述べられており、適切な評価といえる。(伊東)→**適切**

総合評価　【学校の改善に資するご意見】

評価結果

コメント欄

① 企業の人事担当者として、「4-2-1 就職に関する目標を設定し、達成しているか」という点で協力・情報共有出来れば幸いです。
また長引くコロナ禍において、ネットワークツール（ZOOM、Google meet、office365等）の有効活用についての工夫についても産学で情報交換すべき点かと思います。
あわせて、ネットワークツール等の技術以外のメンタル面のケアといった点についても学校・企業も工夫が必要になってきているので同様に情報交換していくなかで具体的な施策に出来ればと思います。（杉本）

② 一時期に比べ、全体的に厳しめの評価が多くなったように感じました。コロナ禍の中ではありますが決して逆境に甘えない学校の自律性こそが日本電子さんの良さであり、改めて非常に頼もしく感じました。もちろん現場にはこの委員会に出てこない問題もたくさんあると思いますけれども、先生方の知見と英知で数々の困難に打ち勝ち、今後も日本の専門学校教育の先駆者としていつまでもご活躍くださることを祈念しております。（石本）

③ 着実に実行されているようで、「妥当な評価」としか、特段他に申し上げることが無く、恐れ入ります。いくつかの項目で「公表、公開ができていない」というものがありました。対象先へ公表、公開されてはじめて意味を成すものが多かった印象ですので、こちらが確実に実施されることを願います。（井沢）

④ 皆さま、お疲れさまでした。ありがとうございました。
ご説明いただいたすべての項目に対して、真摯に取り組まれておられ自己評価においても厳しさと誠実さがみられ、今後の更なる改善に期待できる内容でした。
蛇足ではございますが、１点気になることとしては、実際に行われている授業内容に対する評価もあったほうが良いように感じました。卒業時の到達目標に向かうための適切な授業が実施されているかが、見えなかったためです。ただし、ここでは大きな枠組みの中での設定だと思いますので、該当しないのかもしれませんが。（木下）

⑤ コロナ禍という生活を一変する様な出来事の中においても、その変化に対応すべく、そして学生最優先で頑張っておられる姿がよくわかりました。
もうしばらく、このような状況が続くかもしれませんが頑張ってください。
また、学生さんの「こんにちは！」と元気よく挨拶する日を願っております。（舟山）

⑥ アウトカムの公開や周知などの影響で他の評価も下がってしまっている部分があったので、今年度改善できれば、いくつかの項目は適切になるのではないかと思いました。コロナ禍が関連する項目は計画通りいかなくてもしょうがないかと思いましたが、今年は２年目に入り、ある程度推測できる状況にはなったと思うので、この辺を改善していただければと思います。

後は大川先生の評価が特に信頼を持てました。非常に厳しく自己評価されており、今後に期待が持てる内容でした。(新)

⑦ 相変わらずのコロナ禍で難しい学校運営と思いますが、その中でもオンライン授業の環境整備や先生方の授業準備、学生サポートなど、実施できることはしっかりと検討されて取り組まれていると感じました。現在のコロナ禍を通じて、オンライン授業を余儀なくされている現状ではありますが、IT 時代における新しい学習の形を検討する良い機会でもあり、オンライン授業か対面か、という観点ではなく、広く学生にとっての学習意欲の向上や学習の理解度によって、どういった授業の形態が最善なのか、それぞれの良い点をうまく活用して、これまで以上に効果的な学習機会の提供や効果的な学校運営を推進されますこと、期待しています。(佐々木)

⑧ ご報告いただきましてありがとうございました。コロナ禍で様々な理由があったかと思いますがそれを言い訳とせず、非常に謙虚に評価されており、内容も適切だと考えております。

コロナが収束したとしても、コロナ禍の知識・経験を活かした、ハイブリッド運用を期待しております。引き続き改善活動をよろしくお願いいたします。(伊藤)

⑨ 丁寧に学校評価に取り組まれており、実現の可否をしっかりと自己評価して改善につとめている姿がみうけられ、信頼ができる。着実に年々と実績が積み重ねられており、今後も改善が期待される。

アンケートの活用もよい、教育姿勢についてカードにして先生方が身に着けているという具体的な方策も好感が持てた。(篠原)

⑩ 全体を通じて、コロナ禍の影響で評価が下がった印象を受けました。F2F からハイブリッドでの教育体制変更により、よりよい教育環境・質の向上に繋がることを信じております。日々、忙しい中教職員の方々の努力を垣間見られて非常に良い時間でした。

我々としてもお役に立てることがありましたら、お気軽にお声掛け頂けたら幸いです。ありがとうございました。(満岡)

⑪ 新型コロナの影響を受けて昨年、本年と教育環境の変化が求められる中での対応ご苦労様です。御校の真摯な取り組みにいつも感心しております。

われわれソフトウェア業界では、AI やデータストラテジスト等の高度 IT 人材が必要とされています。また、さらに言えばすべての人材が AI 基礎をもっていることが理想となっています。社会人基礎力と同様に AI 基礎力をすべての学生が持てるような取り組み進めていただければと思います。

最後にいつもお話ししておりますが、U-22 プログラミング・コンテストへの定期的応募お待ちしております。(原)

⑫ オンライン参加者の評価記入シートが使いにくい（特にコメント欄）ので改善をお願いしたい。(米井)

⑬ コロナ禍で学校の運営も大変だったことと思います。オンライン授業も多かったでしょうか。オンライン授業で実習関係はなかなか難しいと思います。先生方は工夫されて行っていると思いますが、学生の専攻のスキル、特に実践が伴わない

学生が出ないよう先生方頑張ってください。（勝間田）

⑭ VUCA の時代かつコロナ禍で見通しの難しい中、多方面での変革の考え方、努力に敬意を表します。（松下）

⑮ 方針を明確にして各種取り組みの成果と課題を明確にし、取り組んでいることを感じました。キャリア教育でも生徒の社会人基礎力自己診断の結果は、全体に活動前から向上していることはすばらしいと思います。コロナ禍で遠隔教育としてオンライン授業の実施はまだ続くと思いますので、さらに手法を確立されていくことを期待しています。卒業後のキャリア支援の在り方や効果について今後、新たな情報が発信されることを楽しみにしています。（西田）

⑯ コロナ禍で、今まで通りにいかないことも多々ありましたが、貴校にはいつも臨機応変に色々と対応していただき、感謝しております。

今回の報告書の中にも記載がありましたが、コロナ禍でストレスを感じている学生も多くいるだろうと推測されます。思うように学習が進められない、思い描いていた学校生活と違う、このままで目標を達成できるのだろうか等という不安を感じている学生さんに対して、先（ゴール）を見せて引っ張っていってあげてほしいと思います。

本日の委員会で何回か「ポリシーの策定はできているが、学生自身や外部へ公開できていない」という話が出ていましたが、ディプロマポリシー等を公開し、学生さんをはじめ、外部にゴールを伝えていくことができれば、出席率・学習効果・資格取得率・就職率を上げていくことも可能なのではないかと思います。これからポリシーを公開されるとのことですので、その後の変化も知りたいです。

今後ともよろしくお願いいたします。（会田）

⑰ 関連する法制度や省庁の設置基準によるところが大きいものと存じますが、オンライン授業を今後も推進し設備などのハード面をスリム化することで教育内容など重要な項目に資するソフト面へリソースを割く（または入学できる学生数を増やす）ことができるようになるのではないかと感じました。（谷）

⑱ 講義科目のオンライン授業についての学生の「満足度」も比較的高く、コロナ後も「ハイブリット型」は検討すべきテーマだと思います。

数々の試行錯誤はあると思いますが、先生方、スタッフの皆さん一丸となって頑張って下さい。（小澤）

⑲ 現在の状況の中で、やれるべきことをやって頂けていると思います。

しかし、保護者の立場から専門学校の 2 年間はとても早く時間が過ぎると思っておりますのでコロナ禍で、登校も週に 3 日、他はリモートでの授業で、社会に出られる知識や実力は養われるであろうかと不安になることもあります。やはりすぐに聞ける環境がいつもあるわけではないので、そこには差が出てくると思います。この差は資格試験の取得にも関わってくる問題であります。環境を整えた上で、早期の授業を願うばかりであります。本日は、初参加の為、要領が掴めず申し訳ありません。

こんな風にやるんだよとやり方、記入の仕方などご教授頂けますと幸いです。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。（前田）

⑳　やはり資格の目標等について検討してほしい。(松井)

㉑　学生目線でも評価内容の課題点や現状報告に関して、厳格で適切な評価が行われていると判断致しました。コロナ禍によって昨年度の予定が大幅に変更、中止となったことにより実施ができなかったものも多くありますが、オンラインという新しい形で様々な行事や授業が変わっていきました。その中で「コロナだから」という一時的ものと考えるのではなく「新しいカタチ」としてオンライン化のフィードバックを評価していただき、今後のアフターコロナの動向として、オンラインの強み、オフラインの強みを追及し、授業形態や行事などをハイブリットに運用していただければと思います。

また、就職活動において、状況の変化が激しく、ゲーム業界では筆記試験や面接がほぼすべてオンライン化しており、授業で受ける就職対策の内容がオフラインの内容で現状の就活と大きく食い違っています。こちら、4-2-2 に観点して大幅な見直し、対応をしていただけますと幸いです。(伊東)

Ⅳ　令和３年度第一回学校関係者評価委員会議事録

日　　時：令和３年７月５日　13：30～16：45
場　　所：日本電子専門学校　711 教室（オンライン）
学校関係者評価委員：

名　前	所　属　（役　職）	区分
杉本　武史	株式会社ぴえろ（人事総務部リーダー）	企　業
石本　則子	株式会社スタジオフェイク（代表取締役）	
井沢　祐	株式会社スタジオフェイク （研究開発部　ディレクター）	
木下　幸弘	株式会社ジェイスリー（取締役副社長）	
舟山　大器	株式会社横浜環境デザイン（社長室長）	
新　和也	オートデスク株式会社 （テリトリー営業本部 メディア＆エンターテインメント）	
佐々木　伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社 （代表取締役）	
渡邉　登	合同会社ワタナベ技研（代表）	
伊藤　好宏	JTP 株式会社（技官）	
篠原　たかこ	CG-ARTS（教育事業部　事業部長）	職能団体
満岡　秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構（理事）	
原　洋一	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 （理事・事務局長）	
米井　翔	一般社団法人組込みシステム技術協会 （交流推進本部　人材交流委員会　委員）	
森　まり子	東京商工会議所新宿支部　事務局長	
松下　秀房	目白研心中学校・高等学校（理事 校長）	高校教員等

西田　政偉	株式会社ウィザス （第２教育本部　教育運営部　教務 ICT 支援室 課長代理）	高校教員等
会田　由紀子	東京ギャラクシー日本語学校（教務部　副部長）	日本語学校
谷　伸城	株式会社アプリケーションプロダクト （プロジェクトマネージャー）	卒業生
前田　かざね		保護者
小澤　博太郎	百人町西町会（会長）	地域住民
松井　双綺	高度情報処理科（3 年）	在校生
伊東　佳汰	ゲーム制作科（2 年）	
山﨑　ひかる	コンピュータグラフィックス科（1 年）	
笹原　萌絵	アニメーション科（1 年）	
岡本　沙織	コンピュータグラフィックス研究科（1 年）	

日本電子専門学校参加者：

名　前	役　　職
船山　世界	校長
杉浦　敦司	副校長
五十嵐　淳之	クリエイター教育　部長
大川　晃一	エンジニア教育　部長
高橋　陽介	キャリアセンター長
大野　通江	学事部長
内田　満	総務部長
君塚 信和	管理部長
菅原 勇之介	広報部課長

進行：

13:30	１．開会（挨拶、配布資料確認）	五十嵐
	２．校長挨拶、学校関係者評価全体説明	船山
	３．学校側参加者紹介、学校関係者評価委員紹介	五十嵐
	４．学校関係者評価の進め方説明	五十嵐
13:50	５．議長選出、委員会開始、議事進行	議長（舟山委員）
	６．自己評価結果の解説とその評価の報告	
	教育重点項目	船山
	基準１　教育理念・目的	杉浦
	基準２　教育活動	杉浦
		君塚
		菅原
		大川
	・・・評価結果の判定（評価）・・・	
	基準４　学修成果	杉浦
		高橋
		大川
	基準７　学校組織・学校運営	内田
	基準８　社会貢献	内田
	・・・評価結果の判定（評価）・・・	
15:00	７．令和３年度教育重点項目	船山
15:10	８．意見交換	
15:35	９．全体会終了	
15:45	10．分野別分科会（企業・職能団体委員）	
	分野ごとにオンライン会議システム（Zoom）を利用し実施	
16:45	11．分野別分科会終了	

1. 全体会自由意見

自由意見：

自己点検評価の評価（適正・不適正）終了後、学校関係者評価委員より自由に意見を頂戴する時間を設けた。次年度の学校運営や教育活動に直接的、間接的に反映できる意見も多々あり、以下にその記録を報告する。

【（企業／ゲーム）株式会社スタジオフェイク　石本様】

全体的な取り組みとして自らに対する評価が非常に厳しくなったという印象を受けました。

前回または前々回までの評価は少し緩めという印象がございましたが、今回は、自分たちのありのままを正当に評価しようという姿勢が見て取れました。そのため、船山校長をはじめ、素晴らしい方向に向かっていると感じました。

ただ、一点残念なところがあり、資格の取得状況の数字についてです。前回も依頼していたが、この数字は年ごとに推移を見るべきだと、前回も指摘していました。

コロナ禍で資格取得が難しかったという要因もあるが、例えばアニメーション科の色彩検定の３級に取得率について、去年が 48.7%だったのに対し、今回は 59.37%に上がっています。一方でアニメーション研究科は去年 40.65%だったのに対し、37.03%に下がっています。

以上のことから、コロナ禍だからこの結果になったという因果関係が、必ずしも結びつかない事象が発生しています。そのため、このデータについては、年ごと、学科ごとの推移を点で見ずに線で見て判断したほうがよいと感じました。

【（企業／AI・モバイル）JTP 株式会社　伊藤様】

コロナ禍で様々な理由があったと思いますが、今回の評価はそれを言い訳とせず、非常に謙虚に評価していたと感じました。内容も適切と考えています。

コロナ禍の収束が見えない状況ですが、先程船山校長がおっしゃったハイブリッド運用などに期待しております。

今回コロナが発生し、それに対して様々な取り組みを行ったと思いますが、今後コロナが収束したとしても、その知見を活かして引き続き改善活動等をよろしくお願いします。

【(職能団体／ビジネス）一般財団法人 ソフトウェア協会 原様】

新型コロナの影響を受け、昨年、今年と教育の分野においては、環境の変化を求められていると思います。その中で、貴校は素晴らしい対応をされており、毎年この委員会に出席し、その取り組みや評価の仕方について、感心しております。

ソフトウェア業界においては AI やデータストラテジスト等、高度な IT 人材が必要とされており、また、社会ではすべての人が AI の基礎知識を持っていることが理想となってきております。これにより、昨今では小学校からプログラミングの授業が始まり、高校では情報Ⅰ、Ⅱという教科が取り入れられ、大学入試においても、

情報という科目の導入が検討されております。このニーズに答えるためにも、より一層御校のような専門学校にしっかりと AI の教育も含めて教育を行っていただきたい。

そして、社会人基礎力と同様に AI 基礎力が高まるよう、学生への取り組みを進めていただきたい。最後に、ソフトウェア協会では、22 歳以下のプログラミングコンテストを開催しているので、是非定期的に応募してもらえるような取り組みをしたいと思っております。

また、今年の 7 月から法人名が変わり、一般社団法人コンピュータソフトウェア協会からソフトウェア協会という名前になりました。

【(卒業生)　谷様】

評価の観点における、卒業後のキャリア形成について、素晴らしいと思いました。

まだ計画段階と言う感じに見受けられましたが、適用性、効果というところを観点に入れ、ディプロマ・ポリシーや学習成果と紐付けてキャリアの形成を、行っていこうという姿勢を感じました。就職率という観点も重要なところですが、会社に入社し、その後キャリア形成をすることで人生が豊かになっていきます。キャリア形成まで見ていただけることについて、素晴らしいと感じました。

【(保護者)　前田様】

いろいろな環境によって今はできることとできないことがあると思うが、何事もやる気や気持ちを強く持たなければスタートさえ切れないと思います。まずは行動をスタートさせるということが、今後は大切になってくると思いました。

子供も今年入学しましたが、コロナの影響で週に 3 回対面、それ以外の日はリモート授業という状況です。元々2 年しか無いので大丈夫なのだろうかといった不安もあったのですが、子供も楽しく学校に通っており、イベントのスタッフなどもやらせていただいて楽しく過ごせているようです。

また、今日はじめて参加させていただいて、先生方の気持ちや、評価委員方々の指摘を聞き、とても安心しました。今後とも宜しくお願いいたします。

【(在学生)　松井様】

今回の評価委員会について、全体的に評価としては正しいと思ました。

しかし、資格の取得率について、先程、スタジオフェイク様のおっしゃっていた、年度ごとの推移が見られるようにしていただきたいです。

また、この取得率が卒業学年の目標資格レベル以上の資格を一つ以上取得している割合という面では正しいと思いますが、情報処理系の学科で目標資格のレベルが低すぎるのではないかと思いました。

特に私が所属している高度情報処理科では、カリキュラムに基本情報処理技術者取得に向けての学習やオラクルマスター取得に向けての学習があったにもかかわらず、GAIT ブロンズと情報活用検定を目標資格におかれています。

この 2 つについては、3 年間在学していて一度も聞いたことがなく、特に GAIT

ブロンズに関してはホームルームの時間を利用し、学校のパソコンで受験します。そのため、ブラウザで検索したり、友達と話しながら取得しても良いくらい難易度の低い資格なので、流石にこれを目標資格にするのはいかがなものかと思いました。

【（企業／電気）株式会社 横浜環境デザイン　舟山様】
　いつも日本電子専門学校へ行くと、学生から明るい声で挨拶をしていただいております。そういう日が一日でも早く戻るように願っております。
　コロナ禍を企業共々一緒に乗り越えていただければと思っております。

2. 分野別分科会

分野別分科会は、以下の次第に従い、各学科の教育内容について、企業や業界団体の委員より評価を受けることを目的として行っている。同時に、業界の動向や最新事情などの収集や人材育成に関する意見交換などを積極的に行っている。

【次第】

１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和２年度の教育活動に関する報告
　・就職状況
　・休退学・進級卒業の状況
　・目標資格の取得状況
　・各種教育活動の状況
　・コロナ禍対応
　・教育課程編成委員会の意見の活用状況　等
３．意見交換
４．その他

【分野】

① 情報分野分科会
② ネットワーク・セキュリティ分野分科会
③ ビジネス分野分科会
④ 電気分野分科会
⑤ 電子分野分科会
⑥ ゲーム分野分科会
⑦ アニメ分野分科会
⑧ デザイン分野分科会
⑨ CG・映像分野分科会
⑩ モバイル・AI 分野分科会

情報分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　情報処理科、情報システム開発科、高度情報処理科

出 席 者：　①学校関係者評価委員

（企業）渡邉　登　　合同会社ワタナベ技研
代表取締役

満岡　秀一　　一般社団法人 IT 職業能力支援機構
理事

（合計２名）

②日本電子専門学校

出崎　誠司　　情報処理開発科　学科長
蓮見　圭亮　　同　　TC
柳橋　宏樹　　情報システム開発科　学科長
糠盛　創　　高度情報処理科　学科長（議事担当）

（合計４名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和２年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・休退学・進級卒業の状況
・目標資格の取得状況
・各種教育活動の状況
・コロナ禍対応
・教育課程編成委員会の意見の活用状況　等

３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　令和２年度の教育活動に関する報告について

＜意見＞

（休退学・進級について）
・休退学しそうな学生をオンラインでも１対１でフォローする体制が必要ではないか。
・学生全員に対して１対１での対応が必要な時代かもしれない。
・学生同士がフォローし合える非公式なオンライングループを用意できると良い。

（目標資格について）
・技術的な評価尺度として、資格の意義が低下している。
・GitHub での公開や note でのテック記事など、アウトプットが評価される。
・フォロー数などを使って、アウトプットを数値で計測できるようになってきた。
・IT 系専門学校の学生の指標として、資格以外の指標があっても良いのではないか。
・資格取得とアウトプットで学生それぞれが得意な方向を伸ばせば良いのではないか。

（就職について）
・AI やデータ分析では、中間層のユーザー企業が外注をやめて内製化する傾向がある。
・時代の潮流に合わせて、育成すべき人材像を明確にすべき。
・業界団体が出している人材潮流のレポートが求められる人材像の参考になる。
・業界団体に資格や採用についてヒアリングすると人材像が明確になるのではないか。
・業界団体として、JUAS, CSAJ, JASA, JISA などがある。
・IT 業界の動向として３年に１回ぐらいの頻度での業界ヒアリングが必要ではないか。
・二次受け三次受けの企業で留学生の採用が増えている。多様化してきた。
・二極化した下位層の学生への対応を減らす経営判断があっても良いのではないか。

（教育活動について）

・自習室をアクティブラーニングルームと呼ぶことに違和感がある。
・ルーブリック評価では、名詞を変更するだけ、コピペが増える等の問題点もある。
・ルーブリック評価によって柔軟性が欠けることに懸念もある。
・Word ファイルを編集して提出するアンケートは回答も集計もしづらい。
・アンケート収集にはオンラインフォームなどを活用したらどうか。

ま と め:　学習面での学生対応、評価資格としての資格取得、求められる人材像と就職状況、教育活動など、多面的に意見をいただきました。総じて、従来のやり方を見直し、変えていく時期になっているとの意見の方向性が見られました。本委員会でいただいた意見を各学科で検討し、今後の教育活動へ活かして参ります。

以上

ネットワーク・セキュリティ分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　ネットワークセキュリティ科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）佐々木　伸彦　　ストーンビートセキュリティ株式会社
代表取締役　チーフ・セキュリティ・アドバイザー

（合計１名）

②日本電子専門学校
姜　　怜和　　ネットワークセキュリティ科　学科長

（合計１名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和２年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・休退学・進級卒業の状況
・目標資格の取得状況
・各種教育活動の状況
・コロナ禍対応
・教育課程編成委員会の意見の活用状況　等

３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　令和２年度の教育活動に関する報告について
＜意見＞
・例年どおりの進級状況について理解した。
・目標資格の取得については、100%の取得率を達成したことは望ましい。
・LinuC、LPIC 資格について、業界で求めている技術に伴う取得希望者並びに資格取得者の増加について理解した。
・就職状況について 2 クラスとも 100%未達成だったことについて、年度の就職について難しい状況であったことを理解した。
・国内において学生向けの参加可能なセキュリティ大会や本学科と関連する大会等について意見交換を行う。

ま と め:　コロナ禍の中で、オンラインの活用は学校にとどまらず、企業でもオンラインを活用した説明会や面接などを行っているのが現状である。また、IT 業界の新卒採用はそこまで大きい影響はなく採用の縮小はない。
日本人採用の枠は拡大しているものの留学生採用は以前厳しい状況である。留学生は技術的な知識やスキルに加え、日本語によるコミュニケーションレベルが以前にも増して必要になると考える。
対面・オンラインでの授業が並行している中で、学生同士でのコミュニケーションを円滑にするのは難しい状況である。授業内容を学生自ら考え行動できるような意見交換の場を提供できるグループ課題等を授業へ積極的に取り入れる工夫が必要であることを再確認した。
業界的にクラウドやセキュリティ分野で幅広く活用されている Linux に学生の関心が高まっており、資格取得希望者も増加している。資格取得は学生の自信につながり、企業から基礎知識を備えていると印象もよくなるため積極的にサポートを行う必要がある。
今後は、本学科で過去参加していた大会にとどまらず、国内で学生参加が可能な大会の情報を収集し、幅広く大会に参加させることができるよう運用していくことが必要である。

以上

ビジネス分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　情報ビジネスライセンス科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（団体）原　洋一　　一般社団法人ソフトウェア協会　理事　事務局長

（合計１名）

②日本電子専門学校
谷口　英司　　情報ビジネスライセンス科　学科長

（合計１名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和２年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・ドロップアウトの状況
・質保証に対する資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・コロナ禍対応
・教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　令和２年度の教育活動報告について
別紙資料をもとに、以下の項目について報告し、意見等を求めた。
（1）就職状況
（2）休退学、進級卒業の状況
（3）目標資格の取得状況
（4）各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
（5）コロナ禍対応
（6）教育課程編成委員会の意見活用状況

＜意見＞

・ITパスポートは、我々の事務局でも必ず取得させている。内容も改善され、以前ほど難しくなくなってきており、一般的な新卒者が受けると言うのも聞くので、取得すると良いのではないか？
→　（6）にもあるが、次年度からカリキュラムも変更し、CompTIA IT Fundamentalsとの並行履修も始まるので、取得者が増えることを期待している。

・昨年度の卒業生のうち、就職を希望しなかった２名の進路は何か。
→　２名とも大学進学希望であった。１名は大学進学、１名は受験し、不合格であった。

・どういう就職先が多いのか。
→　業種は幅広い。職種は販売（携帯電話、家電量販店など）、営業、コールセンターなどである。また、プログラミングは本格的に学習していないが、プログラマも意外と多い。

・DXの話になると、ユーザー企業側にITがわかる人材がいることが重要という話になる。そうでないと進まない。そういう意味でITパスポートは重要。また、AI、プログラミングの知識などは全ての人が必要になる。ITやビジネスなど、幅広い知識、考えられる人材が企業に入ってくると良いと思う。

・その他
特になし。

ま と め:　伺った意見は、今後の学科運営にとって参考になるものであったので、今後の検討課題とし、反映を目指していく。また必要に応じて、教育課程編成委員会での検討事項としても取り上げる予定である。

以上

電気分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　電気工事技術科、電気工学科、高度電気工学科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）舟山　大器　株式会社横浜環境デザイン
PV 事業部　営業戦略室　室長

（合計１名）

②日本電子専門学校
高橋　俊幸　　電気工事技術科　学科長
山路　哲平　　電気工学科・高度電気工学科　学科長

（合計２名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和２年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・ドロップアウトの状況
・質保証に対する資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・コロナ禍対応
・教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　令和２年度の教育活動報告について
＜意見＞
・昨年度の教育課程編成委員会の意見をうまく活用できているとご意見いただいた。
・横浜市にて脱炭素社会の推進にかかわる条例ができるなど、今まで以上に環境保護への意識が社会全体で高まっているため、学校教育でも可能な範囲で取り扱っていくのが良いとご意見いただいた。

議題２　就職状況について
＜意見＞

学科	人数	就職率
電気工事技術科	26名	100%
電気工学科	27名	100%
高度電気工学科	15名	100%

・コロナ禍の中でも安定して就職できている点を評価いただいた。
・創エネ、畜エネに関する需要も益々高まっているため、学生の進路の選択肢として入れると良いと意見をいただいた。

議題３　ドロップアウトの状況

＜意見＞

学科・クラス		年度初期人数	年度終了時人数	ドロップアウト理由
電気工事技術科	19KK	26名	26名	－
	20KK	23名	22名	・健康上の理由
高度電気工学科	18KZ	15名	15名	－
	19KZ	8名	8名	－
	20KZ	14名	11名	・健康上の理由（1名） ・進路の見直し（2名） -退学後就職 -転科（情報処理科）
電気工学科	19KJ	27名	27名	－
	20KJ	24名	18名	・進路の見直し（6名） -大学受験（3名） -退学後就職（2名） -専門学校等（1名）

・中退学の理由はいずれも仕方ない内容で、対応も十分実施しているとご意見いただいた。
・今後はコロナ禍の影響で学費の問題による休退学者も考えられるため、学生と保護者に対する奨学金に関する説明がより重要になると予想されるとご意見いただいた。

議題４　資格の取得状況

＜意見＞

学科・クラス	第二種電気工事士	第一種電気工事士	第三種電気主任技術者※1
電気工事技術科	22／22名，100%	3／22名，13.6%	－
	－	13／26名，50%	－
高度電気工学科	15／15名，100%	8／15名，53.3%	0／15名，0% （1／15名，6.7%）
	8／8名，100%	7／8名，87.5%	0／8名，0% （2／8名，25%）
	3／11名，27.8%	3／11名，27.8%	0／11名，0% （0／11名，0%）
電気工学科	27/27名，100%	26／27名，96.3%	2／27名，7.4% （9／27名，33.3%）
	12/18名，66.7%	5／18名，27.8%	0／18名，0% （0／18名，0%）

※1　括弧内は科目合格者数

・十分な実績を出せているため、今まで通りサポートを続けていくのが良いとご意見をいただいた。

議題５　コロナ禍における各種対応

＜意見＞

・教育活動と学生の安全衛生を考慮して、適切な配分でオンラインと対面授業を併用するのが良いとご意見いただいた。

・コロナ化において特別活動の実施が難しくなることは仕方ないので、可能な範囲で企業と連携して教育活動を進めていくのが良いとご意見いただいた。

ま と め:　専門教育に加えて資格取得や就職面など、学生に対して十分な教育ができていると前向きな意見をいただいた。環境面やエネルギー問題など、あらゆる側面で電気の技術が必要となっているため、今後も社会のニーズに合わせた教育を進める必要があると改めて感じた。

以上

電子分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　電子応用工学科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（団体）米井　翔　一般社団法人組込みシステム技術協会
研修副委員長

（合計１名）

②日本電子専門学校
仲田　英起　　電子応用工学科　科長

（合計１名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和２年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・ドロップアウトの状況
・質保証に対する資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・コロナ禍対応
・教育課程編成委員会の意見活用状況
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　令和２年度の教育活動報告について
＜意見＞
（就職状況について）
・IT 系の企業などでも採用枠を１割、２割に抑えている企業が多く就職率などに影響しているのではないか
・今年度は滑り出しが順調だが帰国を決めている留学生がでるなど影響は少なくない。
・無線局などの系統の仕事へ就職できた実績は大きい、陸特の資格と絡めて学生に示した方がよい。
（ドロップアウト状況について）
・ドロップアウト数については一般的な観点から見ると多くはない。
・方向性を変えることでプラスになるならそれもやむをえないのではないか。
（資格関係について）
・基本情報はタイミングと電子ではマネジメント系がつらいので学科としての上位資格として位置づければよいのではないか。
・消防設備士については仕事の認知を学生にしていってもよいのではないか。インターンなど開拓できればイメージがつきやすくなるかもしれない。
（コロナ対策について）
・対策としては十分されている。これ以上の対策はないとおもう。
（特活について）
・コロナ禍において、数少ないなかで活動していえると思う。今年は対策を講じたものが出てきているので向上するのではないか
・去年は ET 展などの見学会がオンライン化するなどしたが、業界と学生が接点を作ることが就職に通じるので継続してほしい。
（教育課程編成委員会の活用状況）
・活用状況に問題ない。ハードとソフトの境目は曖昧になってきているので、ハードソフトをバランスよくミックスして実施する現在のカリキュラムが良いのではないか。

その他

＜意見＞

・オリジナルテキストの状況　メンテナンスなどを考慮すると、標準の教科書を利用しつつ必要に応じて整備するべき。１００％はかえって偏る恐れがあるため、適度に業界標準のテキストなどを利用する方が学生のためにはよい。

・就職率はパーセンテージよりも実態（就職、進学などの実数）で出した方が、実態が見えやすいのではないか。

ま と め:　状況を報告して概ね方向性等は問題ないことが確認できた。採用状況など業界の動向を伺うこともできた。これらの情報は今後学生の就職指導などに役立てていきたい。またテキスト等は必要に応じてオリジナル化は進めるが、業界標準の知識は身につける必要があるため、そういう意味で市販の教科書を利用するべきとの指摘を頂いた。学生が卒業後業界で必要な知識が身につけられるよう教科書等の検討を続けていきたい。

以上

ゲーム分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　ゲーム制作研究科、ゲーム制作科、ゲーム企画科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）石本　則子　株式会社スタジオフェイク
代表取締役
井沢　祐　　株式会社スタジオフェイク
企画デザイン部マネージャー

（合計２名）

②日本電子専門学校
栗原　央道　　ゲーム制作研究科　学科長
井上　直樹　　ゲーム企画科　学科長

（合計２名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和２年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・ドロップアウトの状況
・質保証に対する資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・コロナ禍対応
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題　令和２年度の教育活動報告について（3学科共通）
＜意見＞
・質保証に対する資格の取得については3学科共に教員が100%取得を目指している熱意が伝わってくるので、そのまま頑張ってほしい。
・各種教育活動の取り組みについては、ドロップアウト対策と重なるところがあるかもしれない。※その他で表記
・ゲーム制作研究科（CU科）とゲーム企画科（CR科）のドロップアウトに関して何とかしないといけない。コロナ禍で家にいるのが逆に決定打になってしまったところがあるかもしれない。※その他で表記
・プランナー職の業務内容に対する意識が低いのかもしれない。高くするために、就職先を具体的に明示して紹介するのが良いかもしれない。
・CU科で取り組もうとしている「メタ認知」はドロップアウトなど関係性を少しでも見ていくと良い。

その他　ドロップアウト対策に繋がる提案
＜意見＞今のリソースを使って、もっと何かできないか検討する必要があるかもしれない。
◎上級生が下級生を指導するメンター制度の導入。（1対1など）
こじんまりしたコミュニティーを作ることで、学生同士の会話も増える。
ティーチング・アシスタント（TA）やスチューデント・アシスタント（SA）の導入もありだと思う。
◎日本電子3学科・内部のコンペティションの実施（理事長杯・校長杯など）
外部コンテストだけでなく、内部でイベントを実施し、留学生賞や企画賞、プログラム賞・デザイン賞など楽しめるイベントの実施があってもいいのではないか。1年に1回で商品もトロフィーや盾など豪華に準備。IUを絡めても面白いかも。目標を見失わないように、学内で発表する場を設ける。
◎YouTubeチャンネル配信

学科持ち周りでもいいので、学生の発信する場を作る。YouTube チャンネルを発信するスタジオを備えれば、設営の準備も減り、慣れれば効果的になるのはないか。

ま と め:　学内における学生同士によるコミュニケーションの創出が大きなテーマかもしれないと感じた。いつからか教員主導ばかりになってしまい、学生同士の関係が希薄になってきた。先生 to 学生だけでなく、学生 to 学生の場が必要になってきたように感じる。目標を見失わないように、学内で発表する場を設け、競争意識を持たせながらも教員も学生も盛り上がれる一体となった学内コンペの実施。アウトプットする場を学外のイベントに頼らず、YouTube など様々なプラットフォームを利用することなどは、今の時代にあっているようにも感じる。CU 科で実施してきたチューターもなくなり、学内での上下の関係や分野の横のつながりも希薄になっているのは事実である。学生同士のフォローがドロップアウトを防ぐきっかけになるかもしれないと感じた。

下記に文部科学省が提示していたティーチング・アシスタント（TA）等における内容を転記してまとめとする。

＜参考＞

・TA（ティーチング・アシスタント）
優秀な大学院学生に対し、教育的配慮のもとに、学部学生等に対する助言や実験、実習、演習等の教育補助業務を行わせ、これに対する手当を支給することにより、大学院学生に講義の実施方法や教材作成に関する技能の修得といった教育トレーニングの機会を提供するとともに、大学院学生の生活を経済的に助けることを目的としたものです。

・SA（スチューデント・アシスタント）
大学院学生ではなく、学部学生を上記の TA（ティーチング・アシスタント）のような教育補助業務に携わらせる場合、TA（ティーチング・アシスタント）とは区別して SA（スチューデント・アシスタント）と称します。

・RA（リサーチ・アシスタント）
優秀な大学院学生等に対し、大学が行う研究プロジェクト等に研究補助者として参画させ、これに対する手当てを支給することにより、研究遂行能力の育成、研究体制の充実を図ることを目的としたものです。TA・SA とは、教育に関わる補助業務か、研究に関わる補助業務かという点で異なります。

・メンター
後輩に対し、履修管理や教育研究活動の支援、精神的・人間的な成長の支援を行い、多方面にわたるサポートを展開する人のことです。

以上

アニメーション分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　アニメーション科、アニメーション研究科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）杉本　武史　　株式会社　ぴえろ　総務人事リーダー

（合計１名）

②日本電子専門学校
坪井　翔　　アニメーション科　/　アニメーション研究科　学科長
田辺　由佳　アニメーション科　/　アニメーション研究科　テクニカルチーフ

（合計２名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和２年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・ドロップアウトの状況
・質保証に対する資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・コロナ禍対応
・教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　令和２年度の教育活動報告について
・感染対策の状況報告及び、オンライン授業の実施報告についてご意見下さい。
＜意見＞
・新型コロナウイルスにおける感染対策およびオンライン授業などの各対応は適正だと思う。
・授業満足度が従来よりも低かった点は、感染対策の観点では致し方ない気もする。今後、学校として教育効果を上げるように工夫して頂くことで満足度は上がるのではないか。

議題２
・2/1~2/19 の２週間、冬期ポートフォリオ講評会をオンライン形式で開催した。開催内容や在り方についてご意見下さい。
＜意見＞
・ペーパーレスは画期的だと思う。
・印刷準備等が簡略化出来たことで、就職活動が活発に行われることに期待する。
・学生数に加えて作品数も多いため、一人ひとりへのコメントを残すには時間的に難しい面もある。時間内で閲覧できると有難い…。

ま と め:　今年度も引き続きコロナウイルス感染症対策により、オンライン授業をはじめ運用が大きく変わったものの、本校アニメ系学科の教育に対して、例年通り概ねご賛同を頂けた。今後もオンラインによる授業や就職活動が続くことが予想されるため、委員から頂いた意見を学科で共有し、質の向上を図るための検討を進めていきたい。

以上

デザイン分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　グラフィックデザイン科、Webデザイン科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）木下　幸弘　株式会社ジェイスリー
取締役副社長

（合計１名）

②日本電子専門学校
小山内　靖美　　Webデザイン科　学科長
植田　誠一　　グラフィックデザイン科　学科長

（合計２名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和２年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・ドロップアウトの状況
・質保証に対する資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・コロナ禍対応
・教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議　　事：　議題１　令和２年度の教育活動報告について（グラフィックデザイン科）
・休学・退学・進級・卒業状況
・就職状況（内定率、内定先、職種別内訳）
・資格取得状況
・学科の取り組み（コンテスト関連、競技会関連、展示会関連、その他特別活動）
・学科での新型コロナウィルス感染症対策に関して
・教育課程編成員会で挙がった意見の活用状況

＜意見＞
・進級、卒業率100%達成は素晴らしい。
・様々な制限がある中で、多くのことに取り組めている。

議題２　令和２年度の教育活動報告について（Webデザイン科）
・休学・退学・進級・卒業状況
・出席率・授業報告・ドロップアウト率
・学科の取り組み（コンテスト、展示会、アワード、プロジェクト関連）
・就職状況（内定率、職種）
・令和３年度の入学者について
・令和３年度の計画について

＜意見＞
・重要な部分を対面授業にするといった教育のポイントを絞る方向性はよい。
・学科を超えた学科横断型の教育は今後も取り組んだほうがよい。

議題２　コロナ禍における在宅勤務状況や新入社員研修の実態に関して。
＜意見＞
・デザイナーは月２回程度の出勤。（2年目未満の社員は週１回必ず出勤）
・社員の業務状況は、在宅勤務日報の提出により把握、管理。特に、勤務日報については、時間と業務内容を必ず記載。時間配分については上長よりフィードバックあり。

・新入社員（デザイナー職）研修に関しては勤続5～6年の社員が教育者となり、過去の案件を事例に、週１回のペースで実施。
→オンライン研修により、例年より1.5倍の時間を費やした。
・現在は、オンラインでの業務や在宅勤務で会社全体の業務はバランスよく回っている。

議題３　コロナ禍による、デザイン会社の業務内容の偏移について
＜意見＞
・今まで受注してきた取引先からのヴィジュアル重視の仕事は変わらず有る。
・昨今、ヴィジュアル＋企画のコンペが急増。
→デザインが良いのは当たり前、デザインを活かす企画力が重要視されている。
→ヴィジュアルにリンクした、企画力や多数のアイディアを盛り込んだポートフォリオ制作を重要視することで企業の採用ニーズに応えられるのではないか。
具体的に多数のアイディアとは、紙・PC・スマホ、サイネージなどの媒体の見極めと、それぞれの効果的なメディア戦略も含めて立案する必要がある。

ま と め:　コロナ禍におけるデザイン分野の就職状況や、求人状況の落ち込みに関して、現状のデザイン会社における業務内容を伺うことが出来たのは、今後のカリキュラムの検討に大いに参考になると感じました。併せて、就職指導の一環として採用状況や求人ニーズ、入社後の研修の実態など、学生に伝えられることも多く知ることができ、収穫の多い分科会になりました。

以上

CG映像分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　コンピュータグラフィックス科、CG映像制作科、コンピュータグラフィックス研究科

出 席 者：　①学校関係者評価委員

（企業）篠原　たかこ

公益財団法人　画像情報教育振興協会（CG-ARTS）　教育事業部　事業部長

新　和也

オートデスク株式会社　メディア＆エンターテインメント　セールスマネージャー

（合計２名）

②日本電子専門学校

永井　紀雄　　CG映像制作科 学科長

金　統一　　コンピュータグラフィックス研究科 学科長

岡野　正信　　コンピュータグラフィックス科 学科長

（合計３名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について

２．令和２年度の教育活動に関する報告

・就職状況

・ドロップアウトの状況

・質保証に対する資格の取得状況

・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）

・コロナ禍対応

・教育課程編成委員会の意見活用状況　等

３．意見交換

４．その他

議　　事：　議題１　令和２年度の教育活動について

＜報告＞

・今期の就職は、コロナの影響で、CG 業界ではなく、一般の会社に就職する学生も例年より多く、帰国した留学生も多かった。これまで見慣れない名前の会社に就職する学生が多かった。ドロップアウト・資格に対する報告を行った。

＜意見＞

・オンライン面接等で、地方からの受験があったようで、例年よりも〆切が早かった。

・昨年度よりも、企業は採用をしている。新卒ではなく即戦力の中途を採用している。

・紙のポートフォリオではなく、データで提出するところが増えている。

議題２　CG業界の現況について

＜意見＞

・Maya を購入している（業績が上がって採用が増えている）会社に対し、オートデスクの運営するウェブサイト「AREA JAPAN」で求人募集を行っている。

・ある工業製品の製造工場にて、CG の需要があることがわかった。今後、同様のモデルが増えてくる（3DCG の技術が必要とされる）ことを予想している。アニメやゲームだけでなく、他業種の CG 関連職種に向けて、学生の注目を集めさせることで、内定率向上につながるのではないか。

・学生のモチベーションを上げるために、CG 業界のクリエイターに学科の授業の重要性について説明していただく講演などあるとよい。（CG クリエイター検定など）

ま と め:　新型コロナウイルスの影響でZOOM等の使用が一般的になってきており、就職採用などに影響が出ていることが確認できた。オートデスク、CG-ARTS ともに、ネットワークを活かして学校に協力することを約束してくださったので、引き続き連携しながら学生指導にあたりたい。

以上

モバイル・AI 分野　分野別分科会　議事録

学　　科：　ケータイ・アプリケーション科、AI システム科
出 席 者：　①学校関係者評価委員
（企業）伊藤　好宏　JTP 株式会社　グローバルビジネスオペレーション統括本部　技官
（合計１名）

②日本電子専門学校
大川　晃一　　エンジニア教育部　部長 兼 ケータイ・アプリケーション科　学科長
福田　竜郎　　AI システム科　学科長
二宮　洋介　　ケータイ・アプリケーション科　テクニカルチーフ
（合計３名）

次　　第：　１．分野別分科会の目的と議事進行について
２．令和２年度の教育活動に関する報告
・就職状況
・ドロップアウトの状況
・質保証に対する資格の取得状況
・各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
・コロナ禍対応
・教育課程編成委員会の意見活用状況　等
３．意見交換
４．その他

議題１　令和２年度の就職状況および目標資格の取得状況について
＜意見＞
・コロナ過にも関わらず学生は勉強を頑張っていると思う。
・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う学校・学科の対応は問題ないと思う。

議題２　令和２年度の休退学、進級卒業の状況について
＜意見＞
・コロナウイルスが感染拡大している状況において留学生が帰国するケースは多いと思う。

議題３　令和２年度の各種教育活動の状況（特別活動、プロジェクトなど）
＜意見＞
・AI・ビッグデータに親和性の高いコンテストに挑戦してもよいと思われる。
・外部コンテストへの参加を通じて学生が自信を持てるようになるとよいです。

議題４　令和２年度のコロナ過対応
＜意見＞
・コロナウイルス感染拡大防止の対策は問題ないと思う。

議題５　教育課程編成委員会の意見活用状況
■AI システム科
＜意見＞
・前処理の教育に関しては現在の授業の進め方通り、その都度教えるのが良いと思う。
・授業で利用するデータセットの準備は時間がかかるので、先輩学生が卒業研究で収集・作成したデータセットを活用して授業に取り入れるのは良いと思う。
・オンライン説明会・面接では企業ごとに着眼点はあるかと思うが、相手がどのように受け取るのかを考えて行動するよう指導してはどうか。また、逆光や背景に埋もれるなどのような技術的に解決できること心構え的なものを切り分けて指導してはどうか。

・ホームルームで実際にオンライン説明会・面接のシミュレーションを実施したのは良い試みだと思う。

■ケータイ・アプリケーション科

＜意見＞

・卒業制作発表会を実施したのは学生にとって良い経験になったと思う。作品を作って、自分で発表し説明する、そうすることで自信を持ったり落ち込んだりすることが成長につながると思う。

・UI/UXデザインを授業で深く教えるのはカリキュラム内での時間的に大変ではないか。しかし、UI/UXの基本的な考え方は知っておいた方が良いと思う。全く知らないのは就職後困るかもしれない。

・UMLの考え方はITに限らず適用範囲が広いので必須だと思う。

ま と め:　モバイル・AI分野の分科会では、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う学校・学科の対応については問題ないとの評価を頂いた。また、コロナ過にもかかわらず外部コンテストへの参加や卒業制作発表会の実施など取り組みがなされていることも評価を頂いた。教育課程編成委員会での意見活用についても問題はないとの評価を頂いた。AIシステム科およびケータイ・アプリケーション科共にカリキュラムに関しては学生に「考え方」を身に付けさせるような方向にするとよいのではないかとのアドバイスを頂いた。コロナウイルスの感染拡大により学生（特に留学生）の休退学・就職動向がこれまでと変わりつつある。オンライン授業のメリットを活かしつつ、細かな学習状況のチェック及びフォローの方法を検討したい。

以上